

§ 1 平成30年の稲作を振り返る

～常に動向を把握し、柔軟に対応することが重要に！～

今年の稲作は史上まれにみる過酷な気象条件の中で行われましたが、農家の皆様の努力で全国的には平年並みの作柄に落ち着きました。本号では、今年の稲作や技術の動向を振り返るとともに、コメ巡る諸情勢などについても若干の紹介をしたいと思います。

○気象

気象庁が9月4日に発表したところによれば、今夏の天候(6～8月)は、平均気温が東日本(東海・北陸、関東甲信越)で1946年の統計開始以降最も高くなりました。岐阜・富山でも連日猛暑日が続いたのは記憶に新しいところです。また、9月上旬に台風21、24号が相次いで襲来し、中旬以降は全国的に日照不足に陥りました。

○作柄概況

前述のように、厳しい気象条件を反映し、10月31日現在の作況指数は全国で99の平年並み、富山が102のやや良、岐阜は97のやや不良となりました。成熟期の厳しい高温条件とその後の日照不足に遭遇した結果ですが、最終的な品質評価も気になるところです。しかし、富山では全国3番目の高水準となり、農家の皆様の努力が報われる結果となりました。

○技術動向

北陸各地で密苗の利用が急速に進み、大型農家で将来にわたって積極的に取り入れようとする動きが出てきました。低コスト・省力稲作を進めるうえで今後ますます関心が高まることが予想されます。

さらに、低コスト・省力稲作技術に対応する方策として、ITやIoTに積極的に取り組もうとする動きも顕著になってきています。まだ試験実証段階にある技術も多いのですが、国・県などの公的機関も大いに力を入れており、今後の動向に注目していく必要があるものと思われます。

一方で、生産現場では今年も成熟期にヒエやクサネムなどの取りこぼしの雑草が目立ちました。特に、ヒエは圃場中央に、また、クサネムやアメリカセンダングサなどの大型雑草は畦畔から侵入し、圃場中央に至っている場合が多く認められました(以下次ページ)。

平成30年の稲作を巡る概況		
要因	項目	今年の特徴等
気象	気温・日照	東日本(東海・北陸、関東甲信)で記録的高温 9月中旬以降の日照不足
栽培	作柄概況	やや不良(岐阜:97) やや良(富山:102) 全国の生産量732.9万トン
	技術動向	北陸で密苗技術が急展開 IT(情報技術)、IoT(モノのインターネット)利用の試み進む 依然として取りこぼしの雑草が目立つ
経済	販売戦略	コメ主産地で軒並み新品種デビュー コメ輸出の動きが加速 コメ価格が4年連続上昇
担い手	農地集積	担い手への集積が鈍化

このような除草剤の効果が不安定になった原因の多くは圃場の均平不足と、除草剤使用後の水管理の不徹底によるところがほとんどで、次年度は、圃場の均平や水管理などの基本技術の徹底が望まれるところです。



圃場中央に目立つビエ



畦畔から圃場中央にかけて広がるクサネム

○販売戦略

今年はコメの主産県において一斉に新品種のデビューが図られました。なかでも、北陸では、新之助(新潟)、富富富(ふふふ;富山)、ひやくまん穀(石川)、いちほまれ(福井)などのラインナップが揃い踏みしました。ひやくまん穀を除いて、いずれもコシヒカリ上回る高価格帯での勝負になるようです。新之助と、いちほまれは昨年先行販売され、一定の評価を得ているようですが、今年本格的にデビューした富富富は、現在のところ1キロ500円の高価格帯で首都圏でも高い評価を受け、滑り出しは上々のようです。本格栽培される次年度からは、ご祝儀相場を克服し、いかに長く消費者に受け入れられる品種に成長していけるかにかかっているものと思われま



本格デビュー

新たな取り組みとしては、国内のコメの消費落ち込み傾向に歯止めがかからないことから、輸出に打開策を求めようとする動きも出てきています。弊社管内の富山では、みな穂農協が積極的な取り組みを始めています。国の農産物輸出政策の後押しもあり、今後の動向に注目していきたいところです。

明るいニュースとしては、コメの価格が4年連続して上昇したことがあげられます。今年度から減反が廃止され、当初は過剰生産による値崩れが起こるのではないかと懸念もありましたが、作況がやや落ち込んだことから、全国の生産見込み量は732.9万トンを程度で、来年6月末の在庫量も適正水準とされる200万トンを下回る見通しとなっています。今後は消費の動向とコメの取引状況に注目していく必要があると思われま

○農地の集積

近年は中山間地などの条件不利地に加え、都市部でも作付されない農地が目立ってきています。国の肝いりで設置された農地中間管理機構が期待どおりに機能せず、担い手への農地集積が思うように進んでいない実態となっていますが、国の来年度予算の概算要求では転作と農地の集積に焦点を当てた施策が展開されることになっており、担い手農家への農地集積が進み、経営がより安定することに期待したいと思いま

以上、今年の稲作を振り返り、コメを巡る新たな動き等についてもいくつか紹介させていただきました。これからは新技術の動向などに一層注意を払い柔軟な対応で経営の安定を図って行く必要があるものと言いま

§1 平成30年の稲作を振り返る

目次

～常に動向を把握し、柔軟に対応することが重要に！～ (名畑技術顧問).....1～2ページ